



# 団体でのGAPの取組と 農作業安全対策の実践

JAグループ GAP支援チーム  
城向 孝洋

**1. 自己紹介**

**2. GAPと労働安全**

**3. リスク評価**

**4. 団体での取組**

**5. 本日のまとめ**

JA職員としてJGAP団体認証を取得する部会の立ち上げから関わり  
内部監査責任者や研修会講師などを行う

JAグループGAP支援チームに所属

- JA全国4連（農林中央金庫、共済連、JA全中、JA全農）による共同事業
- 第三者認証（GLOBALGAP、ASIAGAP、JGAP）の取得を目指す  
全国20か所の産地にアドバイザーとして関与  
認証取得を目指しながら、各都道府県のJAグループにノウハウを伝える

本日の前提

全国的なGAPの取り組み

「GAPに取り組む」「GAP認証を取得する」

「GAP認証を取得する」

都道府県認証、生協GAPなどの小売の制度、第三者認証

**個別認証**と**団体認証**という取り組み方

本日は、**第三者認証を団体で取り組む場合**を主体的に進めます

## GAPで取り組む主なテーマ

- ◆ 食品安全
- ◆ 環境保全
- ◆ 労働安全
- ◆ 労務管理・人権・福祉
- ◆ 経営改善

それぞれのテーマについて、法令順守や持続可能性について取り組む労働安全は、テーマの1つ

食品安全や環境保全、労働安全などについて**リスク評価**を行う

## リスク評価の手順

- ① 危害要因の洗い出し
- ② リスクの大きさを評価
- ③ 被害の影響を抑える対策（ルール）を決定
- ④ 対策（ルール）を実施（周知、教育、実行）

## ① 危害要因の洗い出し

### 1. 作業場所や作業環境について考える

圃場や施設（倉庫や選荷場所など）、作業場所そのものに危険が潜んでいないか？

- 段差 崖、穴、溝など
- 広さ 作業に十分なスペースがあるか
- 高さ 移動時につまづかないか
- 明るさ 作業に適した明るさが確保できているか
- 落下物 上から物が落ちてくる事がないか
- 作業動線 人と機械、車両などと動線が重なる場所はないか
- 換気状況 十分な換気が行われているか
- 危険物取扱場所 燃料保管場所、キュービクル・配電盤・分電盤、ボイラー
- 危険生物 マムシやハチ

### 1. 作業手順や作業内容、使用機械・道具について考える

作業の手順ごとに、作業そのものや使用する機械や道具に危険が潜んでいないか？

- 高所作業 脚立、ハシゴ、ハウスの上
- 動力付き機械作業 収穫、選果機、手押しの農業機械、乗用の農業機械
- 刃物作業 ハサミ、鎌、包丁やナイフ

## ① 危害要因の洗い出し

洗い出しの漏れが無いか見直しとして、

### 1. 作業に使う機械、道具、資材

倉庫などに保管している機械や道具を確認し、検討漏れが無いかの確認

- 機械・道具            草刈り機、チェーンソー、
- 危険物の取扱い      爆発性、可燃性、電気、ガス、毒劇物

### 2. ケガや事故内容の種類

今までに経験したり見たりしたケガや事故の内容を思い出してみる

- ケガ            切り傷、擦り傷、刺し傷、ねんざ、骨折、中毒、酸欠、炎症、各種疾
- 事故            転倒、転落、巻き込み、下敷き、挟まれ、ぶつかり

## ② リスクの大きさとは？

### 【危害発生時の被害の大きさ × 被害発生頻度】

#### ●被害の大きさの判断基準例

- 被害大 死亡事故や後遺症の発生、救急搬送や長期入院に該当する物
- 被害中 死亡や後遺症の恐れは低いですが、発生すると作業の影響が大きい物
- 被害小 傷みが残る可能性はあるが、作業への影響は少ない

#### ●発生頻度の判断基準例

- 頻度大 過去に自分が経験したことがある、発生の可能性が高い
- 頻度中 自分は経験したことがないが、身近で発生した事を知っている
- 頻度小 自分や身近での事例は聞いたことが無く可能性も低い

#### ●組み合わせて考える

- 起きると重大だが、発生する可能性はほとんどありえない
- 大きな被害ではないが、しばしばヒヤリとする
- 自分の経験や身近で聞いた事は無いが、新聞やニュースで見た事がある

被害の大きさと発生頻度から、リスクが大きい、リスクが小さいと判断



- ③対策（ルール）の決定、
- ④実施（周知・教育・実施）とは？

## 対策(ルール)の決定 リスクを小さくする手段を考える

- 万が一発生した場合でも、被害の大きさを可能な限り小さくする
- 発生する確率を下げる、出来る限り発生しないようにする
- 特殊作業は、作業者を限定する、専門業者へ委託する

## 周知・教育の実施例

- 口頭で伝える、朝礼を実施する、研修会を実施する、注意掲示をする  
ロープを設置、柵を設置、杭を設置

リスクの大きさや内容に応じて適切な取組み方を考える

**効果的**で**継続可能**な方法を用いて、リスクに対する対策を実行

団体で取り組む場合には、事務局、指導者の役割が重要

## リスク評価の実施

### 共同施設

- 施設作業員や出入り業者など施設にかかわる人数が多い
- 大型機械、特殊機械がある
- 運搬車やフォークリフトと作業者の作業動線が複雑

### モデル農場

- 自然環境などの対応が必要
- 専用設計ではない、多品目を取り扱う

あくまでモデルケース。そのまま全ての農場で使用しては意味がない  
個別の状況に合わせてリスク評価する必要がある

指導者がリスク評価のコツをつかむ  
指導者の能力が上がらなければ農場指導が難しい  
対策の決め方まで慣れるおく  
非現実的な指導をしない

# 団体での取組

## 危険作業・危険箇所一覧

危険作業	事故を防ぐ対策	リスク評価	危険箇所	リスク評価	事故を防ぐ対策
農業散布	担当者のみが作業する	低	急斜面	高	草刈り、注意書き
機械操作	担当者のみが作業する	高	農薬保管庫	低	関係者以外立入禁止の表示
除草作業	担当者のみが作業する	低			鍵をかける
高温時の農作業	帽子の着用、通気性の良い衣類の着用こまめな水分補給、気温の高い時間は出来るだけ作業しない、こまめな休憩なるべく2人以上で作業する。詳しくはパンフレットを確認する。	高	機械倉庫	低	関係者以外立入禁止の表示
ハウスの修繕(高所)作業	業者に依頼する。	高			
マルハナバチ	マルハナバチ取扱いのマニュアルに従い作業する。刺された場合に備え、救急箱に軟膏を常備する。	低			

## 農場用

労働安全(F(通常時))

## 施設用

工程	使用機械・機器	作業内容	場所(番号)	危害要因	リスク評価			対策・ルール・手順		
					危害の大きさ	発生頻度	リスクの大きさ	内容	実施者	時期
		コンテナ持込	①	交通事故	3	1	3	敷地内での十分な減速と交通ルールを守る。		
		出荷時の荷卸し	②	コンテナ崩れによるケガ	1	2	2	積込・荷卸し時の十分な確認。		
		移動時の段差及び階段の昇降	③	つまずきや高所からの滑落によるケガ	2	2	4	危険な部分に目印をつけ、従業員に周知する。		
		選果レーンへの入退場	④	レーン開閉時の指の挟み込み	1	1	1	急激な開閉を避けるよう従業員に周知する。		
		刃物取扱作業	⑤	刃物によるケガ	1	1	1	カッターの使用を最小限にし、ハサミでの作業とする。刃物の置き場と数量管理を徹底する。		
		すべての作業	⑥	コンベア・ローラーによる挟み込み	2	2	4	挟まれぬ服装で作業する。		
		すべての作業	⑦	高温による熱中症	2	2	4	休憩時間を設け、十分な水分補給をする。また、クーラー及び扇風機を設置する。		
		すべての作業	⑧	体調不良によるケガ	2	2	4	朝礼等で従業員の体調を確認し、異常がある場合随時作業中止させる。		
		フォークリフトによる荷物の移動	⑨	フォークリフトとの接触によるケガ	3	1	3	選果場内では低速運転を心がけ、運転者に安全教育を実施する。作業員限定。		
		資材搬入及び出庫	⑩	エレベーター昇降時の挟み込みによるケガ	3	1	3	使用前に周囲の安全を確認し、操作する。作業員限定。		
		製品積み込み	⑪	ロボットパレタイザー動作時の侵入によるケガ	3	1	3	作業前に安全装置の動作確認を行う。作業員限定。		
		選果	⑫	ハチに刺される。	1	3	3	選果時にコンテナ内の状況を確認する。ハチが確認された場合、速やかに職員へ報告し、指示を仰ぐ。		
		予冷庫	⑬	閉じ込められることによる低体温症	2	1	2	開めるときは、必ず中に人がいないことを確認する。また、内側からの開け方を周知する。		

## 生産者と話してみても感じる事 = 認識と知識の不足

### ●作業全般

- 自分の危険には本人が一番気が付いていない
- 危険である事はなんとなくわかる。どのように危ないかはわかっていない
- やってはいけない事を知らない。危険な方法で作業してしまう

### ●農作業機械

- 機械の操作は慣れているので危なくないと思っている
- 独学で習得した操作方法で使用し、正しい操作方法是知らない
- やってはいけないこと・禁止行為を知らない

### ●農薬

- 適応作物や倍率など食品安全に関する事はよく確認する
- 必須防護具など労働安全部分は見た事が無い（書いている事を知らない）
- 急性障害に意識があったとしても慢性障害にまでは意識が及ばない

## リスク評価をしたことが無い = 危険についてしっかりと考えた事が無い

気がついていない・知らない ⇒ 危険な行為を行ってしまっている  
危険なことを認識する ⇒ 出来ることから改善

- 草刈り機による除草作業時
  - 安全靴の着用、飛び石防止用ゴーグル
- 農薬散布時
  - 農薬用のカップ・手袋・ゴーグル・マスクの準備
- 農作業機械
  - 器具の点検・修理
  - 草刈り機の飛散防止カバー、脚立の開き防止金具

取組によりどのくらい防げたかという事は、無い事の証明となり立証は難しい  
しかし、事例や感覚として良い変化を感じる事がある

## ●事例①

団体で取り組むことで生産者同士の声掛けが発生した  
一方的に注意喚起するだけでなく、相互に声かけすることで改めて認識  
一人だけだと忘れてたり面倒だと思ふ事も一緒に取り組むと意識的に取り組める

## ●事例②

農場が整理整頓され、衛生面だけでなく作業の効率が向上  
使用した道具の片づけが不十分でよくつまづきケガが発生  
以前は繁忙期に限って小さなケガによる離脱が起き、スポット的な雇用で対応  
不慣れな為に作業効率は落ち、人件費がかさんでいた  
ケガが減る事で人件費の抑制にもなった

## ●事例③

リスク評価によって、作業を細分化して考えるようになった  
作業場所の危害要因を取り除いた結果、バリアフリーのような作業場所へ  
作業分担を柔軟に考える事が出来るようになり、環境も整ったため  
障害者雇用を行えるようになった

農作業事故防止や農作業安全について  
様々な啓発活動が行われ、事故防止の意識は広がってきている  
大半は「事故に気をつけよう」で終わっていないだろうか

## 実態として・・・

自分の事としての認識やイメージは無い  
漠然と気をつけようで終わり、何がどのように危ないかまでは考えていない  
結局のところ、何をどうすればいいのかわからない

日々の作業場所・作業内容であるため、  
当たり前前の事となっていて、危険な事だと認識していない

なんとなく危ないと感じていても、具体的にどのように危険なのか、  
どうすると危険なのかがあやふや

**GAPで取り組む労働安全は、高額な費用をかけなくても始められます  
出来る事から始めてみませんか**

**まずは、危険を知ろう（認識する、知識をつける）**

- 客観的に改めて見つめ直し、危険を認識する
  - 一人でやってみるのは難しい
  - 団体で取組む、農場内のみんなで考える  
指導者を入れてみんなで考えてみませんか？
- やってはいけない事を確認
  - 調べてみる（ラベル、説明書、インターネット）
  - 聞いてみる（GAP指導者や農作業安全に詳しい人、業者）